

logicool®

優れた周辺機器が優れた
た成果を生み出す理由



誰にでも、発揮できる才能があります。自らの才能を最大限に発揮することは各個人の役目ですが、雇用主の方にも一定の役割が求められています。雇用主が従業員の潜在能力をフルに引き出し、生産性を最大限に高めるためのひとつの方法は、従業員のパフォーマンスと体験を向上させるツールを提供することです。

適切な道具があれば、あらゆる場面で結果を大きく変えることができます。考えてみてください。適切なシューズがあれば速く走ることができます。適切なカメラを使うと、より鮮やかで細部までくっきりと映る写真を撮ることができます。適切なスポンジを使うと、食器を素早く綺麗に洗うことができます。

こういった例と同様に、適切なデスクトップ機器を使用することで、仕事で使う主な能力を高めることができます。ここで、マウス、キーボード、ウェブカメラ、ヘッドセットといったデスクトップ周辺機器が、本当にパフォーマンスの明らかな違いを生み出せるのだろうか？さらに言えば、あるデバイスと別のデバイスとでどれほどの違いがあるのだろうか？

もっともな疑問です。自身でその違いを確かめる機会はいまだになかったかもしれません。しかし、いったんこれらの高度なデバイスを手にして、その機能と使い心地を味わえば、もう後戻りすることはないでしょう。

その点を踏まえて、ロジクールのパersonalワークスペース機器のアドバンスポートフォリオは、ロジクールの他のコア

製品と何が違うのでしょうか？さらに重要なのは、人々が実際にこういった高度なデバイスをどのように活用して能力を高め、ワークフローを効率化させているのかという点です。

この資料では、人々が当社の高度なデバイスを活用し、そこから価値を引き出すさまざまな方法をご紹介します。



高度なマウス： MX Master 4 for Business (日本では販売されていません)

多くのユーザーは、マウスをクリックとスクロールを行うための単なるツールに過ぎないと考えています。また、高度なマウスが提供する機能や、それが日常業務にどのように影響するかをまったく認識していないユーザーが大部分です。MX Master 4マウスによって、文字どおり指先がもたらす可能性の世界に目を向ける時が来たのです。

MX Master 4は、ロジクールのパーソナルワークスペース ソリューションのアドバンスポートフォリオに新たに加わった最新マウスです。なじみのあるクリックとスクロールの機能はそのままに、比類のない速度と精度（そして数々の革新的な機能）でそれらを実現し、毎日のワークフローと生産性を新たな高みに引き上げます。



まずは、誰もがよく知っているスクロールについてご紹介します。指を軽く動かすだけでページを上下に移動できるスクロールホイールの便利さは、誰もが実感できるでしょう。目的の場所に移動するのに、クリックやスクロールバーを使う必要はありません。一般的なユーザーには基本的なスクロールホイールで十分です。しかし、さらなる速度と精度を求めるユーザーにとっては、MX Master 4は大きな変革をもたらす存在になります。

MagSpeed スクロールにより、MX Master 4は、ピクセル単位で停止できるほど精密でありながら、1秒に1,000行スクロールできるほど高速です。これは、常に何千もの写真やビデオのフレームを巡りつつ、1枚の目的のフレームを探すクリエイターに最適です。また開発者は、瞬時に数千行のコードをスクロールできるため、デバッグ作業をより迅速に進めることができます。

このマウスをさらに高度なレベルに引き上げるのは、水平スクロール用のサムホイールです。上下方向以外にスクロールするという発想は、多くの人には馴染みがなく、戸惑うものです。しかし、その仕組みを理解すれば、多くの価値を見いだすことができます。

例えば、スプレッドシートを日常的に扱うユーザー（データアナリストなど）なら、垂直スクロールのみでスプレッドシートを操作するのがどれほどストレスになるかをよく知っています。サムホイールを使うと、スクロールバーを使った無駄な動作やクリックなしで、左右にスクロールして目的のセルに移動できます。

日常的に Adobe Photoshop や InDesign でコンテンツをデザインしているクリエイターの場合も、サムホイールは効果を発揮します。ブラシやペンのサイズを変更する際に何度もクリックする必要がなく、水平スクロールを使って簡単に変更できるのです。

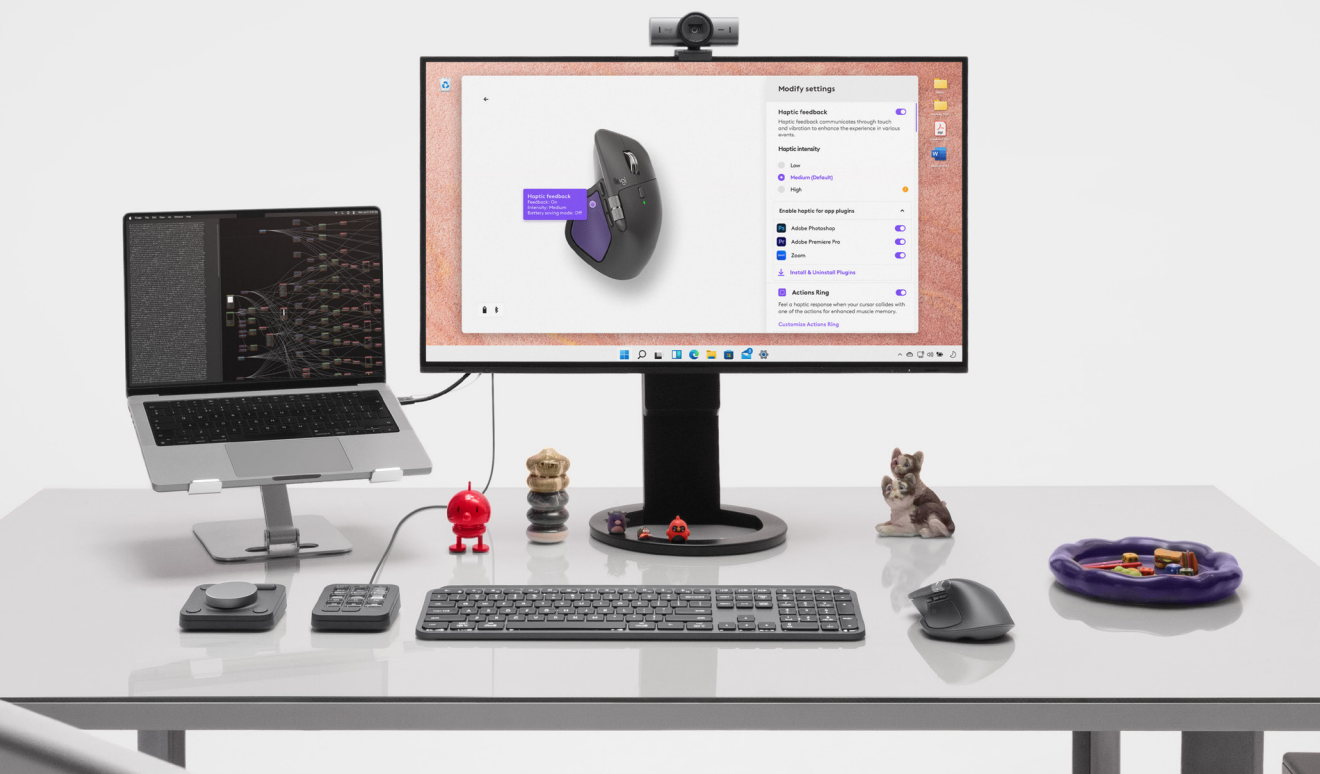
「毎日 Salesforce を使いますが、水平スクロールホイールのおかげでページ幅いっぱい広がるレポートの操作がとても楽になりました。」

- MX MASTER 3S ユーザー



89%

のユーザーが、MX Master マウス
が全体的な生産性にプラスの影響
を与えることに同意¹



¹ 既存のMX Master 3ユーザーであり、MX Master 3の使用前に別のマウスを使用したことがある、8ヶ国に分布する55人の回答者による結果。

ボタンのカスタマイズ

財務、人事、IT、またはその他のどの部門で働いている場合でも、仕事を進めるのによく使うアプリケーションが1つや2つ、場合によっては3つあるでしょう。アプリケーションを切り替える方法はいくつかありますが、混雑したデスクトップ上で目的のアプリを探し出すのに何度もクリックが必要になることがあります。

MX Master 4では、**Logi Tune** を使用して**最大6個のボタンをカスタマイズ**できます。これらのボタンを使って特定のアプリケーションを開いたり、ショートカットを作成して繰り返し作業を迅速化したりできます。すべてワンクリックで操作可能です。PhotoshopやZoomに素早くアクセスする必要があるかもしれません。簡単な方法でスクリーンショットを撮りたい場合もあります。いずれにせよ、必要な動作が少なければ少ないほど作業効率が上がります。



さらにカスタマイズが必要な場合は、Actions Ring でカスタマイズできます。Actions Ring ではボタンのカスタマイズと同様に、Logi Options+ を使用してオンスクリーンオーバーレイをカスタマイズできます。このオーバーレイには、触覚センサーパネルを1回クリックするだけで実行できるアクションやコマンドを割り当てることができます。これによって、一般的なデスクトップアクション（Finder を開く、新しいメモを作成するなど）だけでなく、アプリ内のタスクも実行することができます。

クリエイターは、Adobe Lightroom で Actions Ring をカスタマイズすることで、お気に入りの調整設定を素早く正確に写真に適用することができます。常に Zoom 会議を利用している経営幹部は、カメラビューを素早く調整したり、カメラを切り替えたりすることができます。すべてのアクションが簡単になればなるほど、よりスムーズなワークフローを実現できます。

Actions Ring は
操作時間を最大

33%

短縮¹。

¹ Actions Ring ショートカットと MX Master 4を使用。ロジクール Ergo ラボの調査（2025年）結果。
37人の MX Master マウスユーザーを対象に、8種類のデスクトップアクションのテストを実施。
結果は、ショートカットの割り当てによって異なる場合があります

高度なキーボード： MX Keys for Business

多くの人は、キーボードもマウスと同様に基本的なタスクをこなすだけの、シンプルなツールであると捉えています。より高度で洗練されたキーボードによって何ができるかを知れば、状況は大きく変わるかもしれません。今こそ、彼らに適切な知識を提供し、よりスマート、より効率的に働けるよう支援するチャンスです。

では、ロジクール MX Keys/MX Keys Mini と他の製品では何が違うのでしょうか？その答えは、きっと想像を上回ります。





タイピングと使い心地の向上

3,000文字のレポートを定期的に作成するとしても、あるいは時々メールを送信するだけだとしても、キーボードの快適性と使い心地は重要です。というのも、快適であるほど精確になり、精確であるほど、効率的になるからです。さらに効率的であるほど、各自の体験も向上します。

ロジクール MX Keys/MX Keys Mini は快適性と使い心地を重視しており、その違いを実感できます。まず、キーボード本体は補強として単一の金属プレートを備え、それがしっかりと安定した土台として機能し、テーブル上で滑るのを防ぎます。不安定なキーボードでタイピングが中断された経験がある場合、このキーボードが提供する価値をおわかりいただけると思います。

キーボードの快適性と使い心地をさらに高めるのが、Perfect Stroke キーです。**各キー上の指の形状に合わせたくぼみにより、スムーズかつ精確なタイピングが可能になり、すべてのキーストロークが確実に反映されます。**これは、ライターや開発者のような大量にタイピングするユーザーにとって特に価値があります。キーの打ち間違い一つで集中力と勢いが途切れてしまうからです。



高性能バックライト

これまで説明した高度な機能の多くは生産性に関するものですが、単純に便利な機能についても注目すべき点は数多くあります。多くの場合、こうした機能は、実際に必要だと気づくまで、存在すら知られていなかった類のものです。

例えば、多くのユーザーにとってバックライトキーボードの価値はまだ十分に認識されていません。彼らは、通常の勤務時間中は明るいオフィスで仕事をしています。しかし、日が暮れて部屋の照明が薄暗くなると、バックライトキーボードが不可欠になります。

MX Keys キーボードにはこの機能をさらに進化させたスマートバックライトが搭載されています。**作業に集中し、いつの間にか日が暮れても、キーボードは、部屋の明るさに合わせた最適な明るさに既に調節されています。**そのため、深夜までプロジェクトに取り組む場合でも、単に夜型の人も、照明環境に左右されることなく自分の好きな場所で快適に入力できます。

高度なウェブカメラ： MX Brio 705 for Business および Brio

ウェブカメラに関して言えば、人々が最初に（そして時には唯一の）気にするのは、画面上での自分の見栄えです。結局のところ、きちんと見た目を整えた同僚たちが並ぶ画面の中で、一人だけ疲れ切った顔をさらしたい人はいないでしょう。しかし、より高度なウェブカメラは、画像を補正する以上の機能を備えています。ご自身の目でお確かめください。



優れたビデオ体験

ウェブカメラが単なるカメラ以上の機能を備えているのは事実です。プレミアムなビデオ体験なしには、高度なウェブカメラとは言えません。その体験は、カメラ画質そのものから始まり、その他の主要なカメラ機能にまで及びます。

ウェブカメラに最高のカメラ解像度を求めているなら、MX Brio 705 と Brio に勝るものはありません。ほとんどのウェブカメラが1080p 解像度を提供する中で、この2つのカメラはいずれも非常にクリアな4K のビデオ体験を提供します。そのため、重要な会議の進行役を頻繁に務めるユーザーであっても、ポッドキャストや Web セミナーの参加者であっても、あるいは単に画質を重視するユーザーであっても、自分が発信する映像の品質に自信を持つことができます。

残念ながら、カメラ品質が最高であっても、背景の照明が不十分な場合はその効果が損なわれてしまうことがあります。1日を通して最適な照明環境を提供できる理想的なビデオ会議環境を構築していない限り、自身の見た目を最適に演出してくれるカメラが必要です。

MX Brio 705は、AI 駆動の RightLight 5（顔ベースの画像補正機能）を使用して、他の標準的なウェブカメラよりも優れた自動光補正機能を備えています。これによって、**照明条件が不十分な環境下でも、より自然な映像を届ける**ことができます。これは誰もが高く評価している点です。





プレゼンテーションを成功させる

オンライン会議に受け身の立場で参加することと、会議を主導し、数十人、場合によっては数百人の人々に対して主な話し手になることはまったくの別物です。皆の視線があなたに向いているときは、あなたのすべての動きが視聴者の集中力に影響を与えます。カメラが被写体に合わせて自動調整してくれない場合、自分が画面中央に収まるよう、カメラや自分自身の位置を頻繁に調整する必要が生じます。

幸いなことに MX Brio 705は、RightSight 自動フレーミング¹を活用して、少々座っている席の高さなどを変えた場合や、立ち上がって会話をする場合でも、常にカメラがあなたを中心に捉え続けます。あなたが目の前のプレゼンテーションに集中し続けることができれば、視聴者もあなたに注意を向け続けることができます。

会議で扱う内容の多くはオンラインで共有されますが、コンピュータの枠を超えた現物を見せたい場面も少なくありません。最新のスケッチを共有するクリエイターや新しいプロトタイプを共有する製品管理者、あるいは従来からの方法で何かを共有したい人のいずれであっても、それを簡単に行えるカメラがあれば大きな違いが生まれます。

MX Brio 705の Show Mode を使用すると、**カメラの角度を簡単に操作して、物理的な現物のプレゼンテーションを行う**ことができます。やっかいなウェブカメラの移動はもう必要ありません。さっと下に傾けるだけで、手元の作業内容をはっきりと分かりやすく見せることができます。

¹ Logi Tune で有効化。Logi Tune は Windows および macOS で利用可能です (logi.com/tune で入手可能)。この機能は ARM プロセッサ搭載のコンピュータでは使用できません。

高度なヘッドセット： Zone Wireless 2

自宅にいてもオフィスにいても、生産性を最大化するためには、気が散らない環境を作り出すことが重要です。注意散漫になる最も一般的な原因の1つは雑音です。こういった気を散らす音は、コントロールできるものもあれば（座る位置など）、コントロールできないものもあります（通話の相手側の背景雑音など）。しかし、作業に使用する適切なヘッドセットを選べば、どちらにも対処することができます。

ヘッドセットごとの違いはすぐにはわからないかもしれませんが、良いものと卓越したものを分ける重要な特徴がいくつか存在します。

Zone Wireless 2は、より高度なヘッドセットから得られるものを示す好例です。



集中を妨げないクリアな対話

すべての会議の本質は対話にあります。つまり、相手の声をより明確に聞き取り、自分の声をよりクリアに伝えられるほど、会話の効果は高まります。聞くという観点では、アクティブノイズキャンセリング（ANC）技術になじみがある人が多いでしょう。この機能は、周囲の騒音を積極的に抑えます。Zone Wireless 2ヘッドセットは、さらに一歩進んだハイブリッド ANC テクノロジーを搭載しています。

標準の ANC テクノロジーは、車のエンジン音や換気システムの動作音など、低周波数の音の遮断に最も効果的ですが、**ハイブリッド ANC は、中/高周波数の雑音も遮断して、全ての音の周波数帯域をカバーします。**ハイブリッド ANC によって、よくある煩わしさを効果的に遮断できる一方で、話好きの同僚、吠える犬、叫ぶ子供など、散発的に発生する雑音も完全に遮断できます。

自分の周囲の音は、自分だけでなく、電話やビデオ通話の相手側にとっても迷惑になります。自分の耳に届く雑音を消すことができても、通話相手側にとっては、その雑音がああなたの声を遮ったり、かき消したりするのは避けたいものです。

Zone Wireless 2は**4本の内蔵ノイズキャンセリングマイクにより、周囲の雑音や声を抑制し、あなたの声をクリアに届けます。**そのため、重要な営業電話であっても、重要な

プレゼンテーションの進行であっても、自分の声をはっきりとクリアに伝わっていると確信できます。

逆に、気が散るような背景雑音を聞く側になるのも避けたいところです。理想を言えば、相手側が背景雑音を抑える対策を取るべきですが、それは自分では制御できません... ただし「クリアな通話音」機能を使えば話は別です。Logi Tune を通して Zone Wireless 2で利用できるこの AI ノイズ抑制機能によって、**相手側の背景の雑音が抑制され、あなたが同僚の声をはっきり聞けるようにし、同僚もあなたの声を同じようにクリアに聞けるようにします。**

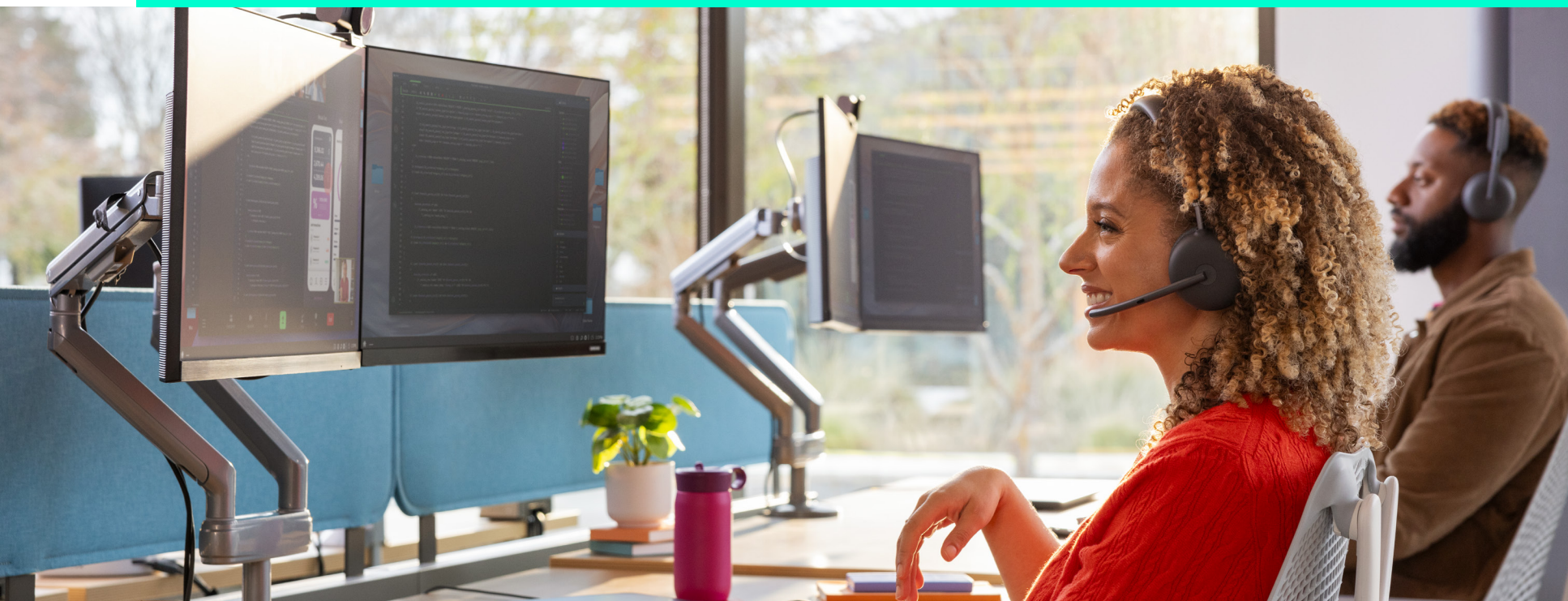


¹ Logi Tune で有効化。Logi Tune は Windows および macOS で利用可能です
(www.logicool.co.jp/ja-jp/video-collaboration/software/logi-tune-software.html で入手可能)。

オーディオ体験をカスタマイズ

周囲の雑音を締め出すことは、精神的な健康と生産性の両方を高めるために必要です。作業やコラボレーション中の気が散る要因が減るほど、最終的には、より集中できるようになります。ただし、不要な雑音を遮断することと同様に、適切な音声を取り込むことも重要です。そして、それらの音声が何であるかを判断できるのは、このヘッドセットを装着している人だけです。

Zone Wireless 2のユーザーは、Logi Tune アプリを使用することで、**会話や聴く曲が、すべて意図通りに聞こえるように、オーディオ体験をパーソナライズできるようになりました。**画一的なオーディオ体験はもう不要です。必要なのはクリアな音声だけです。このクリアさの向上が、チームメンバーを本当の集中状態に導く決め手になります。





最高のパフォーマンス には最高の機器が必要

使う機器は、あなた自身を映し出すものであり、あなたの目指すところを映し出す鏡です。それは、パフォーマンスと体験を未知の領域へ導く強い意志の証です。さて、より高度なデスクトップ周辺機器は、パフォーマンスや生産性にどれほどの影響を与えるのでしょうか？これまでは曖昧だったかもしれませんが、今はもうはっきりお分かりいただけたと思います。

こういったデバイスが、毎日や毎週、何時間も節約することはできませんが（これができる製品はほとんどありません）、小さな時間の節約が積み重なっていき、最終的にはより効率的で集中できるワークフローを実現してくれます。

真の変化は一晩で起こるものではありません。それは、新しい習慣や行動を身につけることで実現します。そして時間とともに、それらがあなたの仕事のやり方に深く根付いていくのです。より高度な周辺機器を導入することで、こうした変化を実現できるので、その一歩を踏み出す準備は、できていますか？

logicool. for business

www.logicool.co.jp/business

右記のリンクからお問い合わせください。

購入前のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/business/contact-b2b.html>

購入後のお問い合わせ：
株式会社ロジクールカスタマーリレーションセンター
<https://prosupport.logi.com/>

©2025 Logitech, Logicool.株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。ロジクール、Logicoolおよびそれらのロゴは、Logitech Europe S.A. および/または米国およびその他の国における関連会社の商標です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に記載されている製品、価格、および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2025年9月